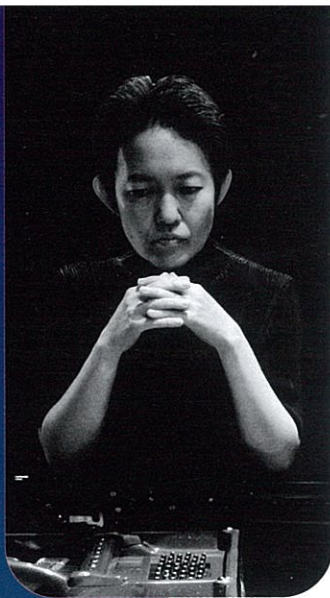


伊藤理恵

ピアニスト

Rie Ito

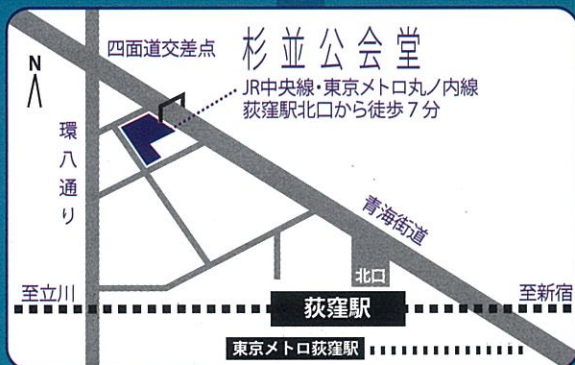


深化を続ける知性派ピアニスト
伊藤理恵、杉並公会堂に初登場。
ベーゼンドルファーの響きで描き出す
音のドラマを味わう。

作品の中には様々な役者が登場します。ピアニストはそれを一人で演じ分けるのです。伊藤理恵

1965年東京に生まれる。国立音楽大学ピアノ科を中退後一般職に従事するが、指揮にて音楽活動を始め、アマチュア・学生オーケストラの指揮、指導を行う。協奏曲の弾き振りでの共演を契機にピアノでの演奏活動を開始、1995年の初リサイタルを皮切りに、ブラームス後期作品全曲演奏会、ベートーヴェンピアノソナタツィクルスなどのリサイタルを開催。室内楽、オーケストラとの共演も多い。数年間の休止を経たのち、2011年に震災チャリティコンサートにて活動を再開、以後テーマ性のあるコンサートを意欲的に手がける。ベーゼンドルファーに深い愛着を持ち、その魅力をウィーンに縁の深い作曲家のプログラムで味わうシリーズコンサート「ベーゼンマニア」を複数の会場で展開中。また近年ベーゼンドルファー東京でのリサイタルにも数多く出演。独自の音楽世界観を持ち、緻密な解釈のもとに深い精神性を湛えた演奏が持ち味。指揮者としての経験を生かした管弦楽的なアプローチから捉える多彩な表現によって、一つ一つに生命感の宿る音で聴衆を魅了する。主要なレパートリーはブラームス、シューベルト、ベートーヴェンを軸としたドイツ・オーストリア古典、ロマン派の作品。2002年にライブノーツレーベルよりリリースしたアルバム「ブラームス作品集～不安と憧れ」は、「たいへんユニークな世界を持ち、聴き手の耳と心をもその世界に惹き込んでしまいそうなピアニスト」（レコード芸術誌）などと高い評価を得ている。

ベーゼンドルファーは、シューベルトが没した1828年にウィーンで創業され、この街に多い石造りの建造物による残響の長い空間で、濁りのない無垢な響きが磨かれてきた。「歌う音」と評されるその音は、強音ではオーケストラのように、弱音では語りかけるように響いてくる。時間をかけて職人の手作りで作られるピアノは、弦楽器のように、楽器全体で音を共鳴させる独特の構造により、あたかも聴き手を包み込むような音色を生み出す。



杉並公会堂ホームページ
<http://www.suginamikoukaidou.com/>



Livepocket ticket
<https://t.livepocket.jp/e/rie-ito>

チケット購入はこちら



杉並公会堂 杉並区上荻 1-23-15 03-3220-0401
JR 中央線/東京メトロ丸ノ内線 荻窪駅北口徒歩 7 分